

令和4年度 幼児教育研修（年齢別担任研修1歳児）全3回まとめ
「子どもの発達と保育者の関わりについて」

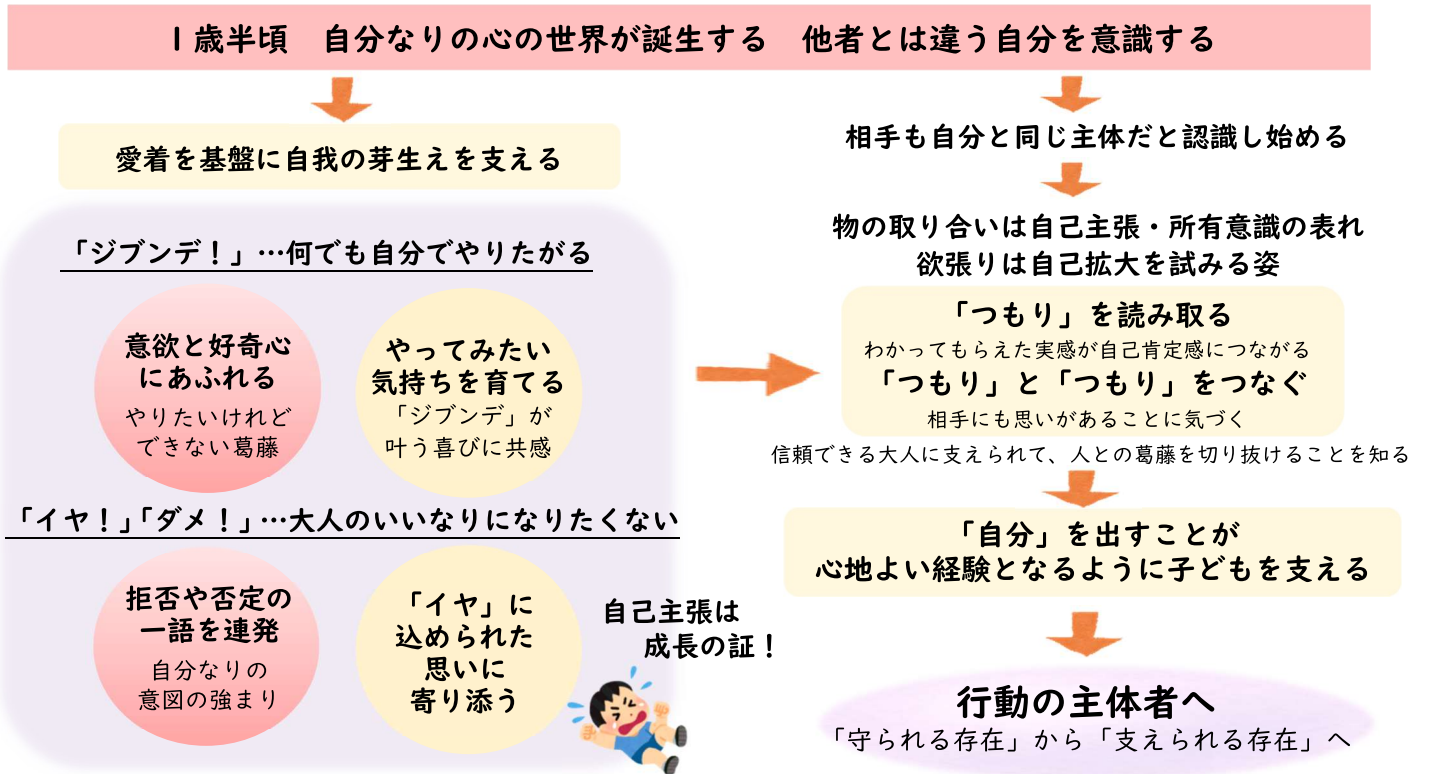
講師：東京未来大学 非常勤講師 小野崎 佳代 氏



1歳児の発達過程～子どもの発達は行きつ戻りつ～



他者との豊かな関係～特定の大人との愛着関係～



子どもは、それまでの体験を基にして環境に働きかけ、相互的関わりを通して発達していく
↓
「できる・できない」で発達を見るのではなく、それぞれの子どもの育ちゆく過程を大切にする
保育者は、一人一人の異なる歩みに寄り添い、その子らしい育ちを支える

遊びは発達の原動力

探索活動を通して育つもの

移動手段の獲得により、自分の意思で行きたいところへ行けるようになる

↓ 主体的に世界に関わることができるようになる

自発的な探索活動を通して、「みつけた!」「おもしろい」「不思議だな」と発見の喜びや感動を得る

自分の内的な求めに従って行動できる喜びを感じ、
知的好奇心や興味関心を高める
大人は子どもの感じていることに寄り添う



大切にしたい遊び

ひとり遊びを十分に楽しめるように

- ・ひとり遊びは、主体性の発達に欠かせない能動的な思考活動
- ・人から干渉されずにじっくり取り組むことが大切

みため遊び・つもり遊びをたっぷり

- ・ごっこ遊びは知的発達を促し、抽象的に思考する力につながる
- ・やりとりを楽しむことで、言葉やコミュニケーション力が育つ
- ・イメージを膨らませて見立てる→想像力が育つ

自ら発動し、自己実現する力を育む

- ・その子がやろうとしていること自体が
その子にとって必要であり、意味がある
- ・五感を働かせて遊ぶ中で、「知的好奇心」「探求心」「思考力」「集中力」「想像力」などの基礎が培われる
- ・夢中になって遊ぶ中で自己発揮し、その子らしさが育つ



保育者の役割

- ・表情や行動などから、子どもの思いや願いを汲み取り尊重する
- ・思い通りにならない葛藤こそ成長の糧である
「つもり」をつなぐ仲立ちをして、遊びの中の自己主張を育てる
- ・自分から遊びだす力（自発性）を育む環境づくりと、「おもしろそう」「やってみたい」と思える動機育てをする
- ・「おもしろいね」「楽しいね」に共感する
- ・たっぷり遊び込める時間や空間を保障する

生命（いのち）の安全教育

「自分は愛されている」「大切にされている」と感じることで自己肯定感の根っこが育まれる

↓ 「受け入れてもらえた」という実感を得ることで自分を大切に、
他者を大切にすることにつながる

生命（いのち）の安全教育の土台

保育者のまなざし



昼寝の時、Aちゃんは寝付くまで、特定の保育者に必ず抱っこを求めます。これは特別扱いでしょうか？他の子どもたちも「ずるい！抱っこして！」と真似するようになりますか？

その子にとって必要な時に必要な援助をすることが大切です。時間の平等ではなく、質の平等を考えましょう。他の子どもたちも「自分が困っている時には先生が寄り添ってくれる」ということが伝わり、安心感につながりますよ。



食事の時間になっても、部屋に戻らないBくん。友達が使っているおもちゃを、自分のものと言い張って譲らないCちゃん。言葉をかけても気持ちを切り替えられず、とても困っています。

子どもの行動には必ず「理由」があります。思い込みや決めつけで子どもを捉えず、複数の目で肯定のまなざしをもって見るのが大切です。大人の都合で否定せず、別の方法を提案したり理由を説明したりするなど、折り合いをつけられるように関わってみましょう。



研修生の報告書より

子どもと一緒に心を動かして感じようとする共感のまなざしをもち、何気ない日常で「楽しい」「おもしろい」を追求できる保育者になりたい。

保育者は、何かができるようにしてあげるのではなく、子どもが幸せに生きるために、その育ちを応援する専門家である。経験だけではいけない。学び続け、専門性を高めることが必要だと学んだ。

まとめ

一緒にいると安心して遊べる
うれしい保育者になる！

愛着関係を基盤とし

共感のまなざしをもつことが大切です。

ありのままの自分を出せるように、
日々の保育を丁寧に
営んでいきましょう。

